令和6年度 第1回檜葉町原子力施設監視委員会 議事概要

日時：令和6年7月23日（火） 11:10～12:25、13:10～16:00

場所：檜葉町役場3階大会議室

配付資料

次第

出席者名簿

資料1 福島第一原子力発電所 作業点検についてご説明

資料2 「町からの報告等」の資料

資料3 福島第一原子力発電所に関する要確認事項（案）

資料4 福島第二原子力発電所に関する要確認事項（案）

資料5 広報計画（案）

1. 挨拶

松本町長、岡嶋委員長、及び東京電力ホールディングス株式会社（以下「東電HD」とする）の都留氏より挨拶があった。

2. 議事

（1）福島第一原子力発電所 作業点検について〈事業者説明〉

「資料1：福島第一原子力発電所 作業点検についてご説明」について東電HDより説明があった後、委員が議論を行った。東電HDによる説明概要及び委員会からの意見・要望は以下のとおり。

【説明概要】

- 大きなトラブルが続いたため、東電HDの現場管理の弱みを明らかにするために作業点検を実施した。
- 作業点検により、現場管理の弱みを明らかにし、通常業務で対応できるよう業務プロセスに落とし込んだ。そのため、今後定期的に作業点検を実施する予定はない。

【意見・要望】

- 今回の作業点検及びそれを踏まえた対策では実効性が足りない。
 - リスクアセスメント手法が従来から進化しておらず古い。そのため、同様のトラブルを繰り返す可能性が高いのではないか。
 - リスク評価・対応は経験と知識がものを言う世界である。そのため、現場の作業員・管理側の人間の双方に能力が求められる。
 - ◇ 現場の作業員について、多重請負により管理が疎かになる側面及び技術力が下がっていく側面は避けられない。多重下請けの禁止のような対応が必要ではないか。
 - ◇ 現状の管理側の人間は現場についての勉強が不足しているのではないか。
 - 安全を高める取組は、総じて、手間が増え、工期が遅れるものとなるので、工期通りに仕事を進めたい現場の意思にそぐわない作業となる。そこにコストをかける覚悟を東電HDが持ち、安全を高める取組を実施する会社が不利益を被らないような補填を東電HDが行うべきではないか。
- 安全性は常に向上させるつもりで取り組まなければ、現状維持も難しいものである。
 - 2～3年に1度程度、定期的に作業点検を実施するべきではないか。

- 経営側（管理側）と現場は異なる視点でリスク評価・対応すべきである。今回の報告は現場の視点を中心であり、経営側（管理側）の視点での話は見えづらかった。

（２）町からの報告等

「資料２：「町からの報告等」の資料」について事務局が説明した後、委員が議論を行った。委員による確認事項及び意見・要望は以下のとおり。

【確認事項】

- 広報車による広報は、聞き取りにくいという声があるが、他の広報手段（メール等 SNS や防災行政無線による広報）をサポートする位置づけで捉えている。
- 災害時は東電 HD を含め関係各所から災害対策本部へ連絡員が来る。福島第一・第二については、東電 HD で参集基準が決まっている他、町から参集を要望することもある。

【意見・要望】

- 防災計画について、バスを 2～3 箇所計 100 台近く集める計画になっている。実際の状況を想像し、起こりうる問題をあらかじめ想定しておく必要がある。

（３）福島第一原子力発電所の論点について 及び （４）福島第二原子力発電所の論点について

「資料３：福島第一原子力発電所に関する要確認事項（案）」「資料４：福島第二原子力発電所に関する要確認事項（案）」について、事務局が説明した後、委員が議論を行った。それぞれについて、以下のような意見が出された。

【福島第一原子力発電所の論点】

- トリチウムの放出量について、濃度規制だけでなく、総量規制の観点から、総放出量及び放出計画の項目を加える。
- 今回の作業点検をふまえた事故防止策が定着しているのかをチェックする項目を加える。新たな確認項目にして、常にチェックできるようにするのも良いかもしれない。
- 処理水の貯蔵に使用されていたタンクの廃棄処分について、作業内容の説明を求める。

【福島第二原子力発電所の論点】

- 汚染状況調査のデータ取得状況について説明を求める。
- 原子炉稼働期間中に発生した廃棄物の処理の計画について、今年度の進捗状況と次年度以降の具体的な計画について説明を求める。
- 乾式貯蔵施設完成後の保管計画の説明を求める。

（５）委員会からの情報発信について

「資料５：委員会からの情報発信について（案）」について、事務局が説明した後、委員が議論を行った。その結果、今年度は「乾式貯蔵施設の視察報告会」と「住民と委員の合同現地視察」の２案について検討・調整する方針となった。

3. 閉会

事務局より閉会挨拶がなされた。

以上